

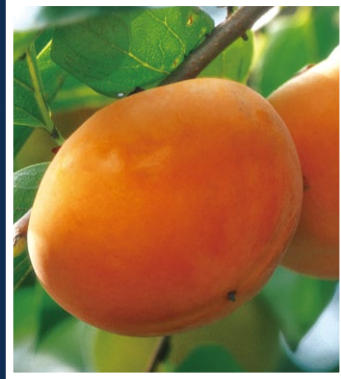


アピマイア[®]

水和剤

幅広い作物の 幅広い害虫に!

- 果樹や野菜など、幅広い作物に登録があり、使い勝手の良い薬剤です。
- 移行性があり、果樹や野菜のアブラムシ類を防除します。
- 果樹(もも、なし、かき)のカメムシ類による果実被害を防止します。



ワタアブラムシ



モモアカアブラムシ



チャノキイロアザミウマ



ミナミキイロアザミウマ



タバコナジラミ



■適用害虫および使用方法

作物名	適用害虫名	希釈倍数(倍)	10アール当り使用量(ℓ)	使用時期*	本剤の使用回数*	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数*
りんご	アブラムシ類 キンモンホノガ ギンモンハモグリガ	1,000~2,000					
	アブラムシ類						
なし	アブラムシ類 カメムシ類 チュウコクナシキジラミ	1,000		3日			
	アブラムシ類						
もも	アブラムシ類 モモハモグリガ	1,000~2,000			2回		2回
	カメムシ類						
ネクタリン	アブラムシ類 モモハモグリガ	1,000~2,000	200~700	14日			
	カメムシ類						
ぶどう	チャノキアザミウマ フタテンヒメヨコバイ	1,000~2,000		21日		散布	
	チャノキアザミウマ カキクダアザミウマ						
かき	アブラムシ類 カメムシ類	1,000~2,000		7日	3回		3回
	アブラムシ類						
うめも	アブラムシ類	2,000		21日	2回		2回
	アブラムシ類						
くり	クイガアブラムシ マンゴー	1,000		7日	3回		3回
	アブラムシ類						
マンゴー	チャノキアザミウマ			14日			2回
	アブラムシ類						
稲	ツマグロヨコバイ ウンカ類	2,000	60~150	7日	2回		3回(種もみへの処理または移植時までの処理は1回、本田での散布は2回)
	アブラムシ類						
稲(箱育苗)	イネドクオイムシ イネミズゾウムシ ツマグロヨコバイ ウンカ類	100	育苗箱(30×60×3cm, 使用土量約5ℓ) 1箱当り0.5ℓ	移植2日前~移植当日		灌注	3回(移植時までの処理は1回、本田での散布は2回)
	イネドクオイムシ イネミズゾウムシ ツマグロヨコバイ ウンカ類						
湛水直播水稲	ツマグロヨコバイ ウンカ類	—	種もみ3kg当り 150~200g (200g/10aまで)	1回	過酸化カルシウム剤との同時湿粉衣		3回(種もみへの処理は1回、本田での散布は2回)
	イネミズゾウムシ						
小麦	ヤギシロトビムシ	1,000~3,000	種子重量の0.15%			種子粉衣	3回(種子粉衣は1回、散布は2回)
	アブラムシ類						
ばれいしょ	アブラムシ類	16	3.2	14日	2回	散布 無人ヘリコプターによる散布	3回(植付時の土壌混和は1回、植付後は2回)
	アブラムシ類						
きゅうり	アブラムシ類 オンシツコナジラミ ミナキイロアザミウマ	2,000	100~300	前日	3回	散布	4回(育苗期の株元散布および定植時の土壌混和は合計1回、散布および常温煙霧は合計3回)
	アブラムシ類						

(2018年3月現在の登録)

作物名	適用害虫名	希釈倍数(倍)	10アール当り使用量(ℓ)	使用時期*	本剤の使用回数*	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数*
すいか	アブラムシ類 ミナキイロアザミウマ						4回(定植時の土壌混和は1回、散布は3回)
メロン	アブラムシ類 ミナキイロアザミウマ タバココナジラミ類 (シルバーリーフコナジラミを含む)			3日	3回		4回(育苗期の株元散布および定植時の土壌混和は合計1回、散布は3回)
にがうり	ミナキイロアザミウマ						2回(定植時の土壌混和は1回)
トマト	アブラムシ類 タバココナジラミ類 (シルバーリーフコナジラミを含む) オンシツコナジラミ	2,000	100~300			散布	3回(育苗期の株元散布および定植時の土壌混和は合計1回、散布は2回)
なす	アブラムシ類 オンシツコナジラミ ミナキイロアザミウマ			前日	2回		3回(育苗期の株元散布および定植時の土壌混和は合計1回、散布および常温煙霧は合計2回)
ピーマン	アブラムシ類 ミナキイロアザミウマ						3回(育苗期の株元散布および定植時の土壌混和は合計1回、散布は2回)
てんさい	テンサイトビハムシ アブラムシ類	60	ペーパーポット1冊当り 1ℓ (3ℓ/m ²)	定植時		灌注	3回(種子への処理または灌注は1回、散布は2回)
茶	チャノキアザミウマ	1,000~2,000	200~400	摘採7日	1回	散布	1回
	チャノドクヒメヨコバイ チャノホノガ	1,000					
たばこ	アブラムシ類	2,000	100~180	10日			2回(植付時の土壌混和は1回、散布は1回)

■常温煙霧

適用場所	作物名	適用害虫名	10アール当り使用量(g)	10アール当り使用量(ℓ)	使用時期*	本剤の使用回数*	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数*
温室、ガラス室、ビニールハウス等密閉できる場所	きゅうり	アブラムシ類	100	5	前日	3回	常温煙霧	4回(育苗期の株元散布および定植時の土壌混和は合計1回、散布および常温煙霧は合計3回)
	なす							
	ぶどう	チャノキアザミウマ	200	9	21日	2回	2回	

*印は収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫(摘採)前日数と、本剤およびその有効成分を含む農薬の総使用回数*の制限を示します。

■注意事項

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきって下さい。
- ハウス等の常温煙霧に使用する場合は、次のことに注意して下さい。
 - 専用の常温煙霧機により所定の方法で煙霧して下さい。とくに常温煙霧装置の選定および使用に当たっては病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
 - できるだけ日中の煙霧は避け、夕刻から煙霧し、6時間以上密閉状態として下さい。
- 稲(箱育苗)に使用する場合は、軟弱徒長苗、むれ苗、移植過期を過ぎた苗などには薬害を生じる恐れがありますので注意して下さい。
- 稲(箱育苗)に使用する場合は、誤って過剰に使用したり、本剤使用後3日以上移植せずに育苗箱中におくと葉枯れなどの薬害を生じることもありますので、所定の使用量、使用時期、使用方法を厳守して下さい。
- 稲(箱育苗)に使用する場合は、本田の整地が不均整な場合は、薬害を生じやすいので、代かきは丁寧に、移植後田面が露出しないように注意して下さい。
- 本剤を無人ヘリコプターによる散布に使用する場合は次の注意事項を守って下さい。
 - ミツバチに対して影響があるので、関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めて下さい。
 - 散布は散布機種の散布基準に従って実施して下さい。
 - 散布に当たっては散布機種に適合した散布装置を使用して下さい。
 - 散布中、薬液の漏れのないように機体の散布装置その他散布装置の十分な点検を行って下さい。
 - 散布薬液の飛散によって動物物の被害や自動車の塗装等に被害を与える恐れがあるなど、各分野に影響がありますので、散布区域内の諸物件に十分留意して下さい。
 - 水源地、飲料用水等に本剤が飛散・流入しないように十分注意して下さい。
 - 散布終了後は次の項目を守って下さい。
 - ① 使用後の空の容器は放置せず、安全な場所に廃棄して下さい。
 - ② 機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理して下さい。
- 湛水直播水稲に使用する場合は、次の項目を守って下さい。
 - ① 本剤を直接もみへ処理すると薬害を生じる恐れがありますので注意して下さい。
 - ② 処理する薬量は種もみの量に合わせて調製して下さい。
 - ③ 過酸化カルシウム剤の3分の1程度をもみに粉衣した後に、過酸化カルシウム剤と本剤を混合したものを種子に湿粉

- 衣して下さい。また、過酸化カルシウム剤の使用上の注意事項を守って下さい。
- ネクタリンおよびすももでは品種により、薬に薬害を生じる場合がありますので注意して下さい。
- かさのキクダアザミウマについて使用する場合は、養葉後の散布では効果が劣る場合がありますので注意して下さい。
 - 室に対して長期毒性がありますので、絶対に薬室にかけないようして下さい。
 - ミツバチに対して影響がありますので、以下のことに注意して下さい。
 - ミツバチの巣箱およびその周辺に飛散する恐れがある場合には使用しないで下さい。
 - 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用を避けて下さい。
 - 養蜂が行われている地区では周辺への飛散に注意する等、ミツバチの危害防止に努めて下さい。
 - マルハナバチに影響がありますので、本剤使用後は他の方法(人工授精、植物ホルモンなど)で授粉作業をして下さい。
 - 散布量は対象作物の生育段階、栽培形態および散布方法に合わせ調節して下さい。
 - 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
 - 医薬用外劇物なので、取扱いには十分注意して下さい。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の処置を受けて下さい。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の処置を受けて下さい。
 - 本剤は眼に対して刺激性がありますので、散布液調製時および散布の際は保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意して下さい。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の処置を受けて下さい。
 - 本剤は皮膚に対して弱い刺激性がありますので皮膚に付着しないよう注意して下さい。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落として下さい。
 - 使用の際は防護マスク、不浸透性手袋、不浸透性除菌衣などを着用して下さい。作業後は手洗、顔を洗い、衣服をよく洗って下さい。
 - 常温煙霧の薬剤処理中はハウス内に入らないで下さい。また、薬剤処理後はハウスを開放し、十分換気した後に入して下さい。
 - 直射日光を避け、なるべく低温で乾燥した壁のかかる場所に密封して保管して下さい。盗難、紛失の際は、警察に届けて下さい。
 - 漏出時は、保護具を着用し掃き取り回収して下さい。
 - 火災時は、適切な保護具を着用し消火剤等で消火に努めて下さい。
 - 移送取扱いは、正しい方法で行って下さい。

● 使用前にはラベルをよく読んで下さい。 ● ラベルの記載以外には使用しないで下さい。 ● 本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。

バイエル クロップサイエンス株式会社

東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8262 <https://cropscience.bayer.jp/>

お客様相談室 ☎0120-575-078 9:00~12:00、13:00~17:00 土・日・祝日を除く

(F-1005 18.03.IS)